

全国育樹祭

平成25年秋季
埼玉県

育てよう

みどりは未来の

たからもの

11月16日(土)、17日(日)の2日間、「育てよう みどりは未来の たからもの」をテーマに、第37回全国育樹祭が埼玉県寄居町と熊谷市を会場に開催されました。

全国育樹祭は、全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木の皇族殿下によるお手入れや、参加者による育樹活動等を通じて国民の森林に対する愛情を培うことを目的として、昭和52年以来毎年開催されています。

16日には寄居町の金尾山県有林においてお手入れ行事が行われ、昭和34年の第10回全国植樹祭で昭和天皇・香淳皇后両陛下がお手植えされたヒノキを皇太子殿下がお手入れされました。

17日に熊谷市の彩の国くまがやドームで開催された式典行事には、約5,700人が参加。皇太子殿下のおことばの後、緑化功労者の表彰等が行われました。式典の終わりには、「国民参加の森林づくりの推進」、「森林資源を活用した循環型社会の実現」、「森林づくりを担う青少年の育成」を柱とした大会宣言が行われました。



皇太子殿下によるお手入れ

皇太子殿下のおことば

第37回全国育樹祭が全国各地から多くの参加者を迎え、ここ埼玉県の彩の国くまがやドームにおいて開催されることを喜ばしく思います。

埼玉県は、県土の3分の1を森林が占めており、甲武信ヶ岳を始めとする奥秩父の山々など、緑豊かな自然に抱かれています。これは、平野部での都市化が進む中、すばらしい自然を守り育ててこられた県民と林業関係者の皆さんのたゆみない努力の賜物であると思います。私も、奥秩父の両神山等に登ったことがあり、眼下に広がる美しい自然に感銘を受けたことを懐かしく思い出します。

昨日、私は、昭和天皇と香淳皇后がお手植えになりましたヒノキの手入れを行いました。私が生まれる前年の昭和34年に植えられたヒノキが、力強く成長し、立派な森を形成するに至っている姿に感慨を覚えるとともに、世代を超えて長年にわたり森林を守り育てていくことの大切さを改めて感じました。

森林は、豊かな国づくりの基礎であり、山地災害の防止、木材等の林産物の供給、水源の涵養等多面的な機能を果たすことにより人々の暮らしを豊かにしてきました。さらに、最近では、温暖化防止や生物多様性保全など地球環境の保全に果たす役割も大いに注目され、期待されております。

こうした森林の大切さを思うとき、緑を守り育んできた技術・文化を次の世代にしっかりと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大きな使命であるように思います。

また、近年、企業や団体の皆さんの自主的な森林整備活動の取組が広がっていると聞き、大変うれしく思います。

こうした中、本日表彰を受けられる方々を始め、日頃から各地域において国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が、より多くの人々により支えられ、更に発展していくことを期待します。

終わりに、この大会のテーマである「育てよう みどりは未来の たからもの」にふさわしく、森林を守り育て、そして活かす活動の輪が、ここ埼玉の地から全国へ、世界へ広がり、そして未来へと継承されていくことを切に願ひ、私の挨拶といたします。

[全国育樹祭併催行事]

全国緑の少年団活動発表大会 11月17日(日)



「みどりの大使」によるステージショー



緑の少年団の活動発表

17日に行われた全国緑の少年団活動発表大会では、全国から選ばれた緑の少年団と、埼玉県緑の少年団が一堂に集い、日頃の活動成果や地域の特色ある活動を発表しました。

緑の少年団の活動発表に先立ち、農林水産省から「みどりの大使」に任命されているミュージカル「葉っぱのフレディ」の子役の皆さんが、「葉っぱのフレディ」ステージショーを披露しました。

発表会では、全国から選ばれた緑の少年団5団体の活動発表のほか、参加した緑の少年団員の親睦を深める交流集會が行われました。

[全国育樹祭記念行事]

2013森林・林業・環境機械展示実演会 11月17日(日)・18日(月)



高性能林業機械の説明を受ける
林農林水産大臣



高性能林業機械の運転座席に座って
説明を受ける林農林水産大臣

森林・林業・環境機械展示実演会は、昭和56年度から開催されているイベントで、昭和63年からは全国育樹祭記念行事となっています。

今回は埼玉県熊谷市の妻沼西部工業団地を会場に、過去最多となる林業機械メーカー等77社による約850機種の新鋭の森林・林業・環境機械等の展示・実演が行われ、約1万5,000人が来場しました。また、17日には、林農林水産大臣が会場を視察しました。

林業機械の展示・実演

